

vol.4 戦国時代の史跡を歩く



市内には戦国時代の史跡がいくつもあてごさる。徒歩で車でいざ参らん!

車進入禁止。堀切まで徒歩。

名取将監の墓

なとりしょうげん

武田信虎に仕えた有力な武将だったが、忠言が疎まれて遠ざけられ、芦安地区に住んだと地元で語り伝えられる。住居があったとされる場所は現在でも「殿屋敷」と呼ばれ、大曾利地区大宝寺に墓がある。

信玄伝承の御勅使川治水史跡

『甲斐国志』によれば、信玄は御勅使川・釜無川の治水のため、石積出や将棋頭、堀切、十六石、信玄堤を築いたと伝えられる。信玄築堤伝承の根拠については不明な点が多いが、石積出や将棋頭は、扇状地に広がる多くの村々を守る重要な堤防であった。

名取将監の墓

大曾利大宝寺

芦安堤

- コースあんない 土屋惣蔵の墓～阿弥陀寺まで 距離13.8km/時間 258分
- ① 土屋惣蔵の墓 0.3km 徒歩5分
 - ② 金丸氏館跡 1.4km 徒歩25分
 - ③ 西野姫のお経塚 0.7km 徒歩14分
 - ④ 西原五輪塔群 5.8km 徒歩110分 車9分
 - ⑤ 法善寺 1.2km 徒歩22分 車7分
 - ⑥ 妙太寺 1.6km 徒歩30分
 - ⑦ 古長禅寺 1.5km 徒歩27分
 - ⑧ 深向院 0.5km 徒歩10分
 - ⑨ 跡部大炊介屋敷跡 0.7km 徒歩13分
 - ⑩ 河村下野守屋敷跡 0.1km 徒歩2分
 - ⑪ 武藤三河守屋敷跡

⑥ 妙太寺

牛頭天王の廃祠を天正年間、武田家臣の原大隈守が本堂を建立し再興したと伝えられる。

⑦ 古長禅寺

臨済宗寺院。信玄の母、大井夫人の菩提寺。大井夫人の墓がある。もともと長禅寺と称するが、後に甲府に長禅寺が造られたため古長禅寺と称するようになった。母とともに信玄も、時の住職、岐秀元伯に深く帰依し、「信玄」の法号も岐秀が授けたものと言われる。 県指定史跡

⑧ 深向院

天長年間、弘法大師創建と伝えられる寺院。武田五郎信光が再興し、天文年間に武田家の重臣であった跡部大炊介が真言宗寺院を改宗して現在の曹洞宗寺院を建立した。本尊は釈迦如来 県指定文化財

⑩ 河村下野守屋敷跡(常泉寺)

東落合の常泉寺は、武田勝頼に従い天目山で自害した河村下野守道雅の屋敷跡と伝わっている。寺は、道雅の妻が、亡き夫の菩提を弔うために建立したと言われ、河村家ゆかりの阿彌陀如来なども伝えられている。

⑨ 跡部大炊介屋敷跡(了泉寺)

跡部大炊介の屋敷跡を寺としたと伝えられる。

十日市

戦国時代以前から続く伝統の市。現在も2月の10・11日の両日に開かれ、甲府盆地に春を呼ぶ祭りとして親しまれている。古くは、法隆院の天文3年(1534)の厨子銘に十日市場の村名がみえる。 市指定史跡

椿城

小笠原長清の孫、上野盛長が鎌倉時代に築いた城で、上野城と呼ばれた。後代武田信虎と争った大井信達の居城となる。大井信達の娘、大井夫人は信虎の正室となり、後に信玄を産むことになる。 市指定史跡



① 土屋惣蔵の墓

土屋惣蔵は武田家滅亡の最後まで勝頼に仕えた武将。織田軍を防ぎ、勝頼に自害の時を与えた「片手千人斬り」の伝説を残す。惣蔵の墓の他、次兄昌続ら金丸氏一族の墓がある。 市指定史跡

② 金丸氏館跡(長盛院)

金丸氏は代々武田家に仕える家柄で、現在の長盛院の地に館を築いた。東側は崖の要害で、西側には土塁と堀がめぐらされている。四代金丸虎義の次男が武田二十四将にも数えられる土屋右衛門尉昌続、五男が土屋惣蔵。

③ 西野姫のお経塚(現畑地)と ④ 西原五輪塔群

西野の武将、明慶院には西野姫と呼ばれる美しい娘がおり、武田信虎に嫁ぐことになっていた。しかし、敵対する大井氏に一族が攻め滅ぼされたため、西野姫は尼僧となり、お経塚で一族の菩提をとむらったと伝えられる。西野西原の円通寺北西には、妙慶院と西野姫の供養塔と伝えられる五輪塔と宝篋印塔がある。

⑤ 法善寺

真言宗の寺院。武田氏の氏神武田八幡神社の別当を務め、武田氏の戦勝祈願寺でもあった。信玄が自筆し法善寺へ奉納した和歌百首は文化8年(1811)の火災で焼失したが、消失前に筆写された木版本が残る。

ここが拙者の家である。

えっさ!

武田家家臣五味土佐守長遠が再興

晴信様の母上様のお墓があるでござる。

戦勝祈願文と信玄木像(法善寺蔵)